

このコーナーは育友会員、教員、学生のコミュニケーションの場として、皆様からお寄せいただいた原稿を掲載しています。日頃思うこと、育友会活動に参加しての感想など、ご自由にお書きください。

投稿を募集しています。
応募方法は47頁をご覧ください。

会員寄稿

随想

コロナ禍の娘の就活

父母幹事 阿野昌子



→娘と私(右)

「まさかこんな年に子どもが就活するなんて」、ほとんどの4年生の父母が思ったはずですが、2年前、長男の就活も経験していたので、スーツの用意と交通費の準備をし、緊張と不安を感じながらも娘の新たなチャレンジを心待ちにしておりましたが、新型コロナウイルスにより状況は一変しました。

就活においては説明会も中止、3～4月は企業がエントリーシートを提出しても返信も来ない企業がほとんどでした。おそらく対応できていなかったのだと思います。やっとWeb面接になってもお互いに慣れておらず、うまく話せなかったり、声が聞き取りにくかったり、そばで見ているとハラハラしました。Web面接の日は自宅の玄関に「面接中」という紙が貼ってあったり…慣れないことが続きました。

5月に入ると少しずつ状況は変わり、企業のレスポンスが早くなり始めました。対面での面接や試験などが行われるようになり、本来の就活のモードになってきた印象でした。

私は就活については余計な口出しはしないと決めておりましたが、コロナ禍では娘と話す時間を沢山持ちました。特に職種については時間をかけて、時には消去法で職種を選びました。適性はとても大事だと思ったからです。

会社説明会が全てWebになったり、会社訪問などもなくなったりしました。パンフレットだけで会社の情報を得て、先輩方のアドバイスや会社の雰囲気も見ることができないという、全てが異例づくし。やれるところまでやってみよう、娘もそんな気持ちだったと思います。

私も長年会社の採用に携わってきたので採用時の(自社での)ポイントはわかります。第一印象や条件などもありますが、会社は努力で入れるものではありません。縁というものがなければ長年働き続けることはできません。その縁を感じ取ってもらえる会社に就職してほしいといつも思っておりました。

今回の就活で最終面接まで残った企業が2社ありました。

1社はWebで試験と2回の面接を行い、最終のみ対面での面接でした。

もう1社はエントリーシート選考以外、試験、適正検査、3回の面接の全てが対面で行われました。マスク、消毒、換気を徹底しての選考でした。

この会社の2次面接でのエピソードがひとつ。娘が小学生の時に参加した「夏休み子どもツアー」を企画した方が面接官でした。そもそも、そのツアーが楽しかったので娘もこの会社にエントリーすることになったのです。

“縁”を感じることができ、その場に居合わせた方々が喜んでくださったそうです。もちろん結果は内定です。知らせを聞いた時、本当に良かったとほっとしました。本人も第一志望の会社です。

「よく頑張ったね。」

どんな状況でも前へ踏み出す勇気と諦めない粘り強さを持ったこと、とても誇らしく思います。

これからの就活が全て変わってしまうかもしれませんが、親の存在は大きいはずですが、私たちこそ諦めてはいけな、この就活で学びました。